

# 平成22年度 丹後広域振興局運営目標

地域振興計画	農林水産業の振興
事 項 1	「丹後・食の王国構想」を中心とした地域の特色を引き出す農林水産業の振興
平成22年度 運営目標	<p>○丹後あじわいの郷を核とした丹後の食を味わう拠点づくり          (1)「丹後・食の王国構想プロジェクト推進協議会」を設置し、企業誘致、観光誘客、拠点づくりの構想を策定します。</p> <p>(2)農のある暮らし「丹後のオリジナル食材」の商品化と丹後の食を味わう拠点づくり【新規】          ①観光とリンクし、「丹後あじわいの郷」を拠点に、丹後の農林水産物の食の体験と情報発信を行います。          「丹後あじわいの郷協力会」が行う「月例祭」（毎月第3日曜日）や「異業種交流会」（シンポジウム、情報交換会）などの取組と地域農業者等との連携による地産地消イベントや農林水産業体験等の取組を公園運営と一体となって進める。          ・食の体験：試食の実施、実際の食材を見て・触れ・味わう体験コーナーの設置          ・情報発信：丹後の食材やレシピを情報誌等により広くPRするとともにFMたんご等を活用し地元へ周知</p> <p>②猪肉・鹿肉の安定供給と需要拡大を図るため狩猟者を対象とした食利用する場合の捕獲技術講習会とマスコミ向け試食会を行います。</p> <p>③鳥獣被害の心配がなく、高齢者や新たな就農者にも作りやすい丹後の新たな食材候補を選定し、栽培実証及び流通調査等を踏まえ、商品化を支援します。 → 商品化1点</p> <p>○丹後産コシヒカリ4年連続「特A」評価獲得を目指します。          丹後米改良協会を支援し、良食味米生産を推進するとともに、PRを行います。</p> <p>①確実な技術普及          ・高度施肥管理技術の実証ほを設置 21年度 4箇所→5箇所 技術研修会を開催（4回）          ・良食味米生産のため水稻生産農家に対して気象状況、病害虫の発生状況、水稻生育状況等に応じた栽培管理の徹底、注意喚起をタイムリーに配信 21年度10回 → 配信15回          ・食味を重視した品質向上の気運づくりと良食味米生産技術の普及定着を目的とした米の食味コンテストを開催します。          → 参加者 米生産農家 21年度54名 → 60名</p> <p>・おいしい丹後産コシヒカリの栽培方法の開発研究（丹後農業研究所）          → 整粒率（欠けたり、割れたりせずに整っている米粒の割合） <u>80%以上</u> （平成21年度 70%）          → 食味推定値（米の「おいしさ」を数値化したもの。70が平均点） <u>90以上</u> （平成21年度 90）</p> <p>②消費者への旨い丹後米PR【新規】          ・消費者の田植え及び稲刈体験（計2回、参加者 100人）          ・消費地（京都市）販促キャンペーン開催          ・「ネーミング」及びキャラクターを募集（応募人数1,000人）し、地域団体商標登録を目指します。</p>

平成22年度  
運営目標

○ブランド京野菜等の販売価格の安定化と作業の効率化により、生産者増と出荷量拡大を図ります。

ブランド京野菜の年間出荷額 **3.8億円**（平成21年度 3億1千万円）

- みず菜 **450トン**（21年度 390ト）
- 九条ねぎ **100トン**（21年度 88ト）
- 聖護院だいこん **90トン**（21年度 71ト）

<みず菜> 取引価格の安定化のため、平成22年度から推進する予約相対専作部会を拡大 → 部会員2割増加（**30戸**）  
（平成22年度当初 25戸）

<九条ねぎ> ハウス整備や機械移植により栽培面積を拡大 → **新規栽培者4名**  
<枝豆> 出荷期間拡大のモデル農家を育成【新規】 → **新規栽培者4名**

<小ギク> 研修会等による生産技術の向上と新規栽培者の掘り起こし【新規】  
→ 作付1ha以上のモデル農家**2名**、新規栽培者**4名**

<京たんご梨> 研修会等による生産技術の向上と新規栽培者の掘り起こし【新規】  
→ 技術研修会**4回**、新規栽培者**4名**

<京たんご梨>  
・産地情報発信や技術開発（施肥・整枝）により品質向上を図りブランド出荷を拡大【新規】  
→ 情報発信**4回**、ブランド出荷率**25%**（21年度は15%）  
・品質向上の技術開発（農研実証試験H22～24）→ 甘みのある果実（糖度11.5以上）の割合：現状18%→**45%以上**

<ブドウ> 消費者ニーズに応じた大粒系早生ブドウの有望品種を**1以上選定**

<その他農業研究>  
・加工用大カブの生理障害（水分・栄養分・温度などの過不足による障害）の原因究明と抑制技術の確立

【茶産地の確立】

○製茶工場の運営体制を確立し、販売拡大を進めます。

①新規植栽の支援 **3haの拡大**（47ha→**50ha**）

②製茶工場の運営体制の確立

- ・製茶工場の運営管理支援  
→製茶工場における管理水準の向上を図るため、適正な製茶行程管理システムを実践指導できる技術者**2名**の育成
- ・本格的生産への支援 一番茶生葉生産量**18トン・15ha**（平成21年度 4.8トン・10ha）  
→ 栽培管理技術の徹底により本格的な生葉生産を支援  
茶園品評会**2点出品（入賞）**  
→ 技術指導による品質向上のための生産支援【新規】 現地実証被覆茶の栽培面積**5ha**

- ・宣伝活動の強化（丹後産茶の地域内外での認知度向上）  
→ 交流研究会**1回**、お茶祭りの開催**1回**、旅館等への丹後産茶キャンペーン、丹後産茶葉を用いた商品開発**2品目**

③丹後の気候風土に適合した茶栽培技術の開発（**1技術**以上開発）

【薦池大納言の生産・販路拡大】

○伊根町の小豆「薦池（こもいけ）大納言」の生産と販路拡大を図ります。 生産量**900kg**（平成21年度は800kg）

- ①優良系統の選抜・確保体制を確立するとともに、品質の向上（選別の徹底）と安定生産を図り、生産量の増加を支援
- ②販売促進とともに、地元農産加工業者について「薦池大納言」を使う新商品開発を支援 → 商品化1点

【地産地消の促進】

○観光とリンクし、丹後産農産物の地産地消を促進します。【新規】

- ①農家・直売所と旅館とのマッチングを推進 → 波及効果が期待される連携モデルの育成 **2集団**
- ②農産加工物の直売までの生産・販売経営を育成 → 加工・直売経営体の育成 **2集団**
- ③旬の産物、生産農家、地産地消の取組等を発信 → 地産地消情報タブロイドの発行 **4回、ホームページ開設**
- ④丹後の農業や食文化への理解を深める取組 → 生産農家と消費者の交流会や、料理教室の開催

【畜産農家への経営支援】

○「付加価値を高めた京都の畜産物増産アクションプラン」に基づく、畜産農家の経営支援（年間市場上場頭数の増加）

- ①高品質な和牛子牛の増頭
  - ・優良和牛胚（受精卵）の供給→和牛受精卵の生産譲渡目標 **300卵**（平成21年度267卵）
  - ・妊娠牛の譲渡 → **12頭**（平成21年度：6頭）
  - ・妊娠牛の増頭 → **平成23年度の子牛譲渡55頭**（21年度：子牛52頭譲渡）を目指し、妊娠牛を**60頭**（21年度：49頭）に増頭

②レンタカウ（淀高原牧場の牛の貸出し）・サポートカウ（畜産農家の牛の貸出し）で、農家等の草刈の省力化・獣害低減に貢献【新規】

- ・レンタカウ **3地区 6頭**
- ・サポートカウ **4地区 8頭**

③京都産和牛のブランド力強化のため、全農京都の「和牛子牛育成マニュアル」策定を支援し、畜産農家への普及の実証に取り組みます。

④体験学習や研修生受け入れを積極的に推進

- ・レンタカウを活用した出前語らい
- ・幼稚園児・小学生の見学と小中高生の体験学習

⑤不受胎牛（妊娠していない牛）の早期発見・治療で、1年1産の子牛生産を目指し関係機関と連携して指導を行います。

- ・定期巡回検診（管内肉用牛全農家30戸、成牛約350頭を対象）  
→ 各農家**毎月1回（毎月8日間、延べ巡回指導日数96回）以上**
- ・延べ検診頭数（成牛1頭あたり3回検診：分娩後2回、妊娠診断1回を基本） → **1,000頭**（平成21年度：1,110頭）  
\* 分娩後早期受胎で検診回数を減少させます。
- ・受胎率（繁殖牛が妊娠する割合） → **95%**（平成21年度：96%）
- ・平均空胎日数（分娩後、妊娠するまでの日数） → **100日**（平成21年度：110日）
- ・丹後地域の特色ある肥育経営（京たんくろ和牛）の生産性向上について、家畜診療及び巡回指導を通じて支援

⑥丹後地域の安定的な家畜診療体制の維持確保に努めます。

- 診療対象戸数（肉用牛飼育農家30戸・乳牛飼育農家7戸） 計**37戸**（平成21年度：29戸）

⑦口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなど家畜伝染病発生予防対策の実施

- 防疫演習の実施 **1回以上、**  
衛生情報の発行 **24回以上**

平成22年度  
運営目標

【丹後産水産物の生産体制の強化・安定供給】

○トリガイ、イワガキ、アワビの丹後ブランド化と生産体制の強化・安定供給

＜トリガイ＞

・種苗配布数 **37万個以上** を供給

・養殖トリガイの販売額 府全体

**1億円** (21年度7,300万円)

宮津市(栗田湾・宮津湾) **2千万円** (21年度1,200万円)

→種苗育成方法の指導研究チームを構成し、種苗育成過程での死亡率改善(約**2割**。21年度62%→40%)による卸販売の増

→丹後とり貝の京のブランド産品としての出荷規格検査 **(6回)**

＜イワガキ＞

・種苗配布個数(採苗器枚数) **1万枚** を供給

・イワガキの**販売額1千万円**(府全体。21年度580万円)

＜アワビ＞

・簡易アワビ陸上養殖の生産拡大

**新規1箇所**(丹後地域 4地区→5地区)

・養殖アワビの販売額

**700万円**(21年度の推計販売額 560万円)

＜販売促進＞

・トリガイ、イワガキの販売促進会議(2回開催)

【農林水産業生産基盤づくり】

○農業・水産業の担い手の確保・育成

①丹後地域の農業生産を支える多様な担い手を確保・育成します。 新規就農者等の育成確保 **20人**

・新規就農希望者や女性等を対象とした農業技術習得の支援

→ 農業基礎講座の開催 **7回**

・農業の担い手を育成する法人等を支援【新規】

→ 「京の農と森」未来を担う人づくり推進事業による就農サポーター(農業技術の指導)を設置する法人数 **10法人等**

②農業従事者の経営・技術の能力アップを支援します。

・若い農業者の経営能力の向上を支援

→ 経営能力セミナー **1回**、情報の発行 **2回**

・栽培講習会や現地検討会等で研究成果を積極的に公表。

(対象作物:水稲、梨、ぶどう、もも、カブなどの野菜、茶など)

→ 施設公開・セミナー等、丹後農業研究所の年間来所者数 **850人**(平成21年度829人)

→ 現地試験 **6ヶ所**、技術検討会 **7回**、タスクチーム課題 **2**、技術講演 **13回**、セミナー **4**(生産者3、消費者1)、成績報告会

→ 施設公開の開催(施設・ほ場見学ツアー、枝豆収穫体験、丹後うみやあもんコーナー等)

③大規模展開する農家、農業法人を支援します。

・集落型農業法人の設立及び経営改善を支援【新規】

→ 集落型農業法人 **3→4法人**、

経営分析できる人材育成 **1法人**

・中小企業者と連携し、新商品・サービス等の開発により新たな京都ブランドを創造する農業者等を支援

→ きょうと農林商工応援ファンド支援事業の採択・支援数 8連携体(平成21年度 2連携体)

④水産業の担い手の確保・育成【新規】 新規漁業者の育成確保 **30人**(府全体)

・若手漁業者等を対象とした漁業技術講習会(**2回**)の開催 → 新規漁業者の受講者 **40名**

・府立海洋高校の「目指せスペシャリスト事業」に協力し、担い手確保に貢献

(二枚貝類の育成調査や、阿蘇海でのアサリ資源回復等)

○農業生産基盤の整備【新規】

- ①農業集落排水事業の実施
- ②ため池等農業災害危機管理事業の推進

**2地区**（京丹後市久美浜町佐濃南地区、与謝野町温江地区）  
**4箇所**（京丹後市）

○ほ場整備

- ・京丹後市大宮町森本地区において、高規格道路や府道計画と調整を図り、埋蔵文化財調査の上、ほ場整備工事（**4.2ha**）を実施
- ・府営ほ場整備事業森本地区において、里力再生に向けた地域住民協働活動の取組を**3回以上**実施

○ネットワーク林道の促進【新規】

- ①丹後縦貫林道リフレッシュ事業「大内線」
- ②緑のふるさと林道「奥寄線」
- ③丹後縦貫林道リフレッシュ事業「太鼓山線」（未整備区間）

→ **供用開始**  
→ **供用開始**  
→ **着工**

○漁港関連施設を整備【新規】

- ①間人漁港 **供用開始**
- ②藻場造成 **新規1箇所**

地域振興計画	観光振興と交流・定住の促進
事項 1	多様な資源を活用した新たな観光・交流・定住施策の展開（日本海観光構想）
平成22年度 運営目標	<p>○丹後広域観光キャンペーン協議会と連携した丹後特産品や観光資源PR 観光入込客 600万人を目指した新たな観光戦略事業の展開 戦略テーマ「私のふるさと丹後」と「食」</p> <p>①大都市圏（東京、大阪）での丹後PRフェアの開催 → <b>東京、大阪 各1回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象 大手旅行会社、マスコミ等</li> <li>・内容 観光資源、海産物、特A「丹後産コシヒカリ」、京野菜などの農産物、丹後ちりめんなどの丹後特産品をPR</li> </ul> <p>②丹後七姫伝説や自然・文化・歴史等の丹後の多様な観光資源を、テレビ番組（旅番組「旅サラダ」、「関ジャニ∞」等）、旅行雑誌（「じゃらん」等）を活用しPR →テレビ・雑誌 21年度 62回→<b>70回</b></p> <p>③その他情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関と連携し、旬のイベント情報等の観光情報紙等の発行 <b>（年6回、各5万部）</b></li> <li>・外国人（特に中国）をターゲットに、ファムトリップ（下見招へい旅行）を実施するとともに、上海万博等海外向けの情報発信を実施 → <b>5回【新規】</b></li> <li>・丹後あじわいの郷等を拠点とした情報発信 → 丹後あじわいの郷協力会「月例祭」との連携</li> </ul> <p>○観光と食による企画商品の開発等</p> <p>①新たな企画商品と観光ルートの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天橋立など素晴らしい自然景観、トリ貝、アワビ、旬の魚等の食、丹後王国など歴史、農業、漁業体験など様々な魅力を満喫する「観光モデルルート」等の設定</li> <li>・「滞在を促進」する旅行商品の造成（旅行会社等と連携）</li> <li>・「観光客の移動の利便性向上」を図る企画商品（公共交通機関と連携）</li> <li>・「エコツアー」（地域の自然等に触れ、それらを学ぶことを目的に行う旅行。モデルルート設定）</li> </ul> <p style="text-align: right;">} 旅行商品 <b>20種類</b>（コース）を企画</p> <p>②丹後のロマン語り部発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後王国、丹後七姫等の伝説や自然、丹後ちりめんなど生活文化の魅力を、「丹後観光口コミ大使」（丹後ふるさと検定合格者）や地域ガイドにより、旅館・ホテルの宿泊客やツアー客に対してガイド実施 → <b>200回【新規】</b></li> </ul> <p>○観光と「天橋立の世界遺産登録に向けた取組」、「山陰海岸ジオパークの取組」との連携</p> <p>①観光とリンクする、天橋立の世界遺産登録に向けた取組等を市町・関係機関と連携し推進</p>

平成22年度  
運営目標

- ・丹後PRフェア、テレビ・雑誌などあらゆる機会を通じて、「世界遺産登録」を目指す活動をPR
- ・海外から専門家を招き、国際的なシンポジウムを開催
- ②山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟に向けて、京丹後市等と連携した取組の推進
  - ・拠点施設などの整備
    - 拠点施設の整備（京丹後エリア総合案内、ジオサイトの紹介パネルや岩石の展示、ビデオ放映、ジオツーリズム拠点）
    - 各ジオサイト（見どころ）のサイン整備（英語表記及びサイン追加設置）
  - ・ジオツーリズム（地質・地形などをテーマとする旅行）の実施、そのための人材育成
    - ジオパークガイド養成講座（専門ガイド10人、ポイントガイド20人の養成）
    - 観光関連事業者（従業員を含む）を対象とする基礎研修、出前語らいの実施：参加者100人
    - 丹後広域観光キャンペーン協議会のエコツーリズムと連携したジオツーリズムコースの設定
  - ・啓発→ 地元住民を対象とする巡回パネル展、ジオサイト冊子等の作成

○丹後の魅力を的確に伝える人材育成の実施

- ①第4回「北京都丹後ふるさと検定」 → 受検者 150名
- ②観光業関係者などを対象とする研修会・講習会の開催（府観光連盟等と連携） → 15回開催
  - ・検定合格者（丹後観光口コミ大使）を活用する講習会
  - ・観光客の誘客推進と滞在の満足度を高める講習会

地域振興計画	織物、機械金属等地域産業の振興
事項 1	地場産業の振興と新分野・新産業の創出による地域経済の活性化
平成22年度 運営目標	<p>【雇用の創出・確保】</p> <p>○丹後地域の雇用情勢の改善</p> <p>①関係機関等と連携した地域経済・雇用関係情報の共有 → ハローワーク、市町、金融機関、商工団体等関係機関会議 ・情報共有 ・雇用や金融等の連携した支援 } を行う。</p> <p>②緊急雇用対策事業による雇用創出 <b>新規雇用者 500名 【新規】</b></p> <p>③地域課題解決に向けた事業展開を図る企業及びNPO法人の提案型事業採択事業者（平成21年度6件）について、引き続き事業化へ支援し、雇用の継続を図る。</p> <p>【中小企業への支援】</p> <p>○中小企業に対するきめ細やかな支援</p> <p>①中小企業サポートチーム等による相談支援の充実（経済団体等と連携した事業所訪問） → <b>目標訪問件数 120事業所</b>（平成21年度100）</p> <p>②新分野進出等ニーズに応じた各種施策の活用（企業の成長支援、商談会や技術支援等による販路開拓） → <b>目標採択件数 計15件</b></p> <p>・「きょうと元気な地域づくり応援ファンド助成事業」「きょうと農商工連携応援ファンド助成事業」の活用 ・「知恵の経営実践モデル認証制度」の活用（自社の知的資産を見つめ直し、強みを経営に活かす取組の支援）等</p> <p>③小企業企業者や商店街等の経営安定化 <b>採択件数50件 【新規】</b></p> <p>・「小規模企業等下支え緊急支援事業」を活用（経営改善や集客効果に繋がる取組の支援）</p> <p>【和装振興・地場産業の振興】</p> <p>○「丹後きものネット」（企業、商工観光団体、府、市町）を中心にする和装振興と、観光産業との連携した取組</p> <p>①「ゆかたを楽しむ日・月間」「きものを楽しむ日・月間」の設定 ②第4期「丹後きものクイーン」を任命し、丹後ちりめんのPRや観光キャンペーンの積極的な展開 ③イベントでの「きものフォトカレンダーサービス」の実施 ④きもの講座の開催</p> <p>○丹後織物のブランド化と売れる商品づくりによる、新たなマーケットへの取組</p> <p>①丹後ブランドの新たな展開を目的とする、機業とデザイナーとのコラボレーション → 概ね<b>5グループ30機業</b>での和・洋装素材や生活関連商品の新商品開発、新分野商品（寝装品等）開発</p>



②開発商品の販路開拓拡大に重点を置いた、大消費地等での展示会

○「丹後・知恵のものづくりパーク」における人材育成と施設有効活用

①丹後機業の後継者を**10人以上**育成（新規就労者及び勤続10年以内の従業員を対象）

②機械金属業の試作・設計・開発力を兼ね備えた高度機械加工技術者を**15人以上**養成、試作開発を支援（中堅技術者を対象）

③織物、機械金属の技術相談を通じた在職者の人材育成 **延べ5,000人**（平成21年度実績4,841人）

④各種研修会、講習会の実施 受講者**延べ10,000人以上**（21年度実績9,020人、うち雇用安定助成金研修6,126人）

⑤小中学生を対象としたものづくり事業【新規】

- ・将来の丹後のものづくり人材を育成するための、小中学生を対象とする科学教室の開催
- ・高校生のインターンシップやクラフトマン実習の受け入れ

⑥丹後・知恵のものづくりパーク利用者の満足度等の評価基準の作成【新規】

- ・人材育成研修等の利用満足度等を把握するため「受研者アンケート」「一定期間経過後の利用企業追加調査」等を実施し、得られた調査結果の数値化や職員の情報共有により、評価基準を作成

⑦丹後・知恵のものづくりパークを活用して、企業の「強み」を生かし、商品開発等にチャレンジする中小企業への技術支援【新規】

- ・企業の技術力をアピールするアイデア（製造上のニーズ・製品展開を含めた試作物）を具現化するための形状作成、加工方法等を提案し試作品の製作を技術的にサポート

地域振興計画	安心・安全、環境先進の地域づくり											
事 項 1	子どもからお年寄りまで安心・安全で元気に暮らせる地域づくりの推進											
平成22年度 運営目標	<p>【福祉・医療関係】</p> <p>○地域医療体制の構築</p> <p>①地域医療再生基金を活用した医師確保・定着化 地域医療再生基金を活用した医療施設の連携とネットワーク、府立与謝の海病院の高度医療機器の整備</p> <p>②救急医療の充実 ・ドクターヘリの円滑な運航を支援するため、運営協議会による受け入れ態勢づくりの促進 ・北部地域の救急医療体制の充実を図るためのシンポジウム開催</p> <p>③在宅医療の充実 ・訪問看護ステーションの移転新設（<u>1箇所</u>）</p> <p>④丹後圏域における医療機関等との情報共有や情報発信の取組 ・丹後地域保健医療協議会の開催（年2回以上開催） ・情報共有を目的とするツール「連携シート」*の本格運用に向けての課題検証（連携推進部会開催<u>3回以上</u>） *病院の入退院や介護保険サービスを利用する際の円滑な情報共有を目的とするツール ・地域の医療や福祉関係者の交流や意見交換等を目的とするシンポジウムの開催</p> <p>○高齢者が安心して地域で生活できるケア体制の整備</p> <p>①特別養護老人ホーム、地域密着型施設（グループホームなど）の介護保険基盤整備を支援</p>											
	<table border="1" data-bbox="510 930 1740 1058"> <thead> <tr> <th>施 設</th> <th>施設整備</th> <th>整備計画樹立</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別養護老人ホーム</td> <td>1箇所（50床）</td> <td>3箇所（140床）</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護施設</td> <td>2箇所</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）</td> <td>1箇所</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>②介護福祉施設の安心安全対策の推進 ・スプリンクラー整備率の23年度末100%達成を目指した指導・支援（平成21年度末78% → 22年度整備目標<u>86%</u>）</p> <p>③認知症地域支援体制づくり ・認知症徘徊模擬訓練の実施拡大（<u>4地域</u>） → 「声かけ運動等」による地域をあげての見守り支援体制の充実 ・インターネットを活用したテレビ会議システムによる相談体制の構築 → 府立医科大学等と連携した医療・福祉等関係者の対応力向上など人材育成と連携強化</p> <p>④福祉有償運送の充実（高齢者等の移手段を確保） ・「高齢者くらしのサポート事業」を利用し、実施事業所において車両整備、運転員養成講習会を開催して運転員を確保</p> <p>○介護・福祉人材確保対策</p>	施 設	施設整備	整備計画樹立	特別養護老人ホーム	1箇所（50床）	3箇所（140床）	小規模多機能型居宅介護施設	2箇所	—	認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）	1箇所
施 設	施設整備	整備計画樹立										
特別養護老人ホーム	1箇所（50床）	3箇所（140床）										
小規模多機能型居宅介護施設	2箇所	—										
認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）	1箇所	—										

平成22年度  
運営目標

- ①京都ジョブパーク等関係機関と連携した就職支援
  - ・Uターン、Iターン希望学生の福祉職場見学会の実施
  - ・福祉職場への就職希望者を対象としたセミナーの開催
- ②定着化支援のため、新任者等の研修会開催

○新型インフルエンザ対策

- ①医療機関、医師会等との検討会開催（感染拡大を防止し、速やかに必要な医療（外来・入院）が受けられる体制を構築）
- ②発生時の初動対応が常にできるよう体制の構築と職員及び関係機関の訓練を実施
- ③普及啓発
  - ・積極的に健康出前講座に出講し、感染予防対策や日用品の備蓄促進等を啓発
  - ・新型インフルエンザニュースを**3回**発行

○健康長寿日本一総合対策事業（健診等受診率向上対策の推進）

- ①特定健診 → 受診率**50%**（平成24年度受診率70%を目標。21年度受診率33%）
- ②がん検診 → 受診率**50%**（平成21年度受診率、胃25%、子宮37%、肺42%、乳43%、大腸36%）
- ③健診の街頭啓発等（予防、早期発見・早期治療周知のため、女性特有のがんに重点）
  - ・啓発協力者**200人の登録**
    - 健診の有意性等を理解していただいたうえで、「ロコミ」による住民等への啓発
  - ・検診受診啓発イベントの開催（市町・民間団体等と連携）
    - 検診PRと催し物・講演とのコラボによる検診受診のイベントを開催（**200人規模**）
  - ・啓発活動の実施（**30回実施**）
    - 温泉施設等を活用した健康連続講座、朝市の場合等での啓発、職域団体と連携した取組など
- ④食育の推進 → 子どもを主な対象に若い世代の健康基礎づくりを応援します。
  - ・食育わくわくフォーラムの開催
  - ・丹後の食育実践活動事例集を作成し、広く普及

○高齢者の「転倒予防対策」

寝たきりの原因となる転倒予防として、転倒予防体操や生活環境の改善を普及します。

- ①健康出前講座など（**20回**）
- ②健康長寿講演会の開催

○子育て支援対策の推進

- ①医療機関・福祉施設の院内保育所の新設（4箇所 → **6箇所**）
- ②病後児保育の新規実施（0箇所 → **1箇所**）
- ③市町・NPO等との交流フォーラムの開催

### ○市町実施の5歳児検診事業への支援

5歳児健診事業（発達障害児早期発見・早期療育事業）の実施園数の倍増

→ **36園**（2市2町）（平成21年度：2市1町17園）

①発達障害研修会の開催（保育士対象：**2回**、保健師対象：**2回**）

②発達障害児支援連絡会を開催し、就学支援のため「丹後地域教育支援センターよさのうみ」、  
丹後教育局等の教育関係機関と連携できる体制整備

③事後支援として、医療・心理の専門的クリニックを開催（**10回**）

→ 対象となる子ども・保護者の受診率目標**100%**

④自閉症児等の支援の一環としてペアレントトレーニングを**1回（6連続講座）**実施

→ 市町保健師の協力を得て、市町が同トレーニングに取り組むように進めます。

### ○障害者の自立と社会参加を進める取組

・「丹後圏域障害者自立支援協議会」で地域課題の解決に向けた体制の強化

・圏域の障害者就業・生活支援センターを中心に、障害者の就労生活支援と「ほっとはあと製品」の販売箇所数増加等

・グループホーム・ケアホームの整備支援

→ 宮津与謝地域、京丹後地域に**各1か所以上**確保

### ○自殺防止・消費生活の相談・推進

(1)管内各市町・各機関との窓口相談の連携強化による管内自殺者数の減少

①「丹後管内自殺対策連絡会」の設置し、管内市町・関係機関相互の情報共有と連携体制を整備

②相談機関対象の研修実施、出前語らい等によるうつ、認知症の理解の拡大

③市町等と連携した自殺ストップ広報の強化

④京丹後市の自殺予防対策の他市町への拡大

(2)丹後地域安心・安全ネットワークによる情報共有 **【新規】**

①消費者あんしん丹後チームによる困難案件の早期解決と、事例研究等を通じた相談員のスキルアップ

②被害の未然対策

→ 研修会と啓発活動による消費者の意識向上。 **開催回数 20回**

・「出前語らい」による高齢者向け講座の開催（悪質な訪問販売等の悪質商法）

・若年者対象の研修会の開催（インターネットやキャッチセールス等）

③市町の消費生活センター設置や窓口の開設への積極的な支援

### 【衛生管理、食の安心安全】

○レジオネラ症防止対策に係る衛生管理基準の遵守の周知徹底

→ 旅館、公衆浴場で温泉を循環利用する重点監視指導施設を対象

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年に1回の立入検査による衛生管理の徹底指導 → 192施設中<u>96施設</u>を目標</li> <li>・ 観光旅館組合などの各種団体と連携した自主的な衛生管理への指導等</li> </ul> <p>○食中毒の発生予防、食品の安心安全の確保【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①違反食品を排除し、府民の健康被害を予防するための「食品の収去検査」を実施 → <u>25品目、109検体</u></li> <li>②「京の食”安全見張り番”」食品衛生推進員（33名）、及び食品衛生指導員（68名）による食品業者自主衛生管理の推進</li> <li>③各衛生協会と連携した事業者向け「食品衛生責任者講習会」による衛生教育 → <u>養成：2回、実務：5回</u></li> <li>④「出前語らい」による消費者への衛生教育 → <u>3回</u></li> <li>⑤保健所と農林部局（JAS担当）が連携した「食品表示合同パトロール活動」 → <u>30施設</u>の立入監視</li> </ul>
<p><b>事 項 2</b></p>	<p><b>丹後の文化や自然を生かし、新たな活動を拓く地域づくりの推進</b></p>
<p>平成22年度 運営目標</p>	<p>○海岸漂着ごみ処理対策</p> <p>→ 管内市町の計画策定を支援し、海岸漂着物の現状把握、市町・関係機関へ情報提供を行います。【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①海岸漂着物の適正処理指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海岸漂着物対策推進のために策定予定の京都府地域計画の啓発</li> <li>・ 適正処理に必要な情報提供等の支援</li> </ul> </li> <li>②海岸漂着物の防止活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみの不法投棄防止や河川環境の保全などの啓発</li> <li>・ 事業場立入検査等で、廃棄物の適正処理や適正な事業推進を指導し、活動参加を促します。</li> </ul> </li> </ul> <p>→ 地球温暖化対策等推進基金を活用し、海岸漂着物の回収及び処理を実施します。 21年度16箇所→22年度<u>20箇所以上</u></p> <p>○工場事業場の立入検査を強化</p> <p>→ 排水による管内河川や内湾の環境破壊を未然に防止【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法令排水基準の適用事業場（140箇所）について、<u>80箇所</u>（毎年実施50箇所＋残り90箇所は3年間で毎年30箇所）の立入検査（水質検査）</li> </ul> <p>【文化振興・自然】</p> <p>○国民文化祭開催に向けて、<u>管内全市町</u>でプレ事業を開催</p> <p>○阿蘇海の環境改善及び天橋立の環境保全等の取組</p> <p>(1)天橋立環境保全活動</p> <p>関係市町・団体と連携しながら、国際的な評価を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①専門家（歴史家、地理研究家、美術史研究家、庭園研究家など）による調査・研究</li> <li>②海外から専門家を招き、国際的なシンポジウムを開催</li> </ul>

平成22年度  
運営目標

(2)阿蘇海環境改善及び環境保全等

①地域住民への阿蘇海の現状PR

- ・上流域住民へのPR（体験・体感型も一部実施）年**12回**  
（体験・体感型は、啓発DVD上映による阿蘇海のヘドロや水質比較）

②環境改善行動を促進する環境リーダー（**10名**）を養成

③清掃活動の支援

- ・住民参加による清掃活動、竹炭による流入河川浄化モデル事業を実施

④アサリ垂下育成技術（養殖技術）を確立

- ・ホンダワラ類の海面育成試験、アサリ養殖の実現に向けて垂下育成実証試験をさらに進め、本格実施可能な技術を確立

⑤宮津港海域環境創造事業（覆砂事業）を継続実施し、海底の生物生活環境を改善し自然浄化能力を高めます。

(3)天橋立公園継承準備委員会の継続的な運営による府民協働体制の構築

- ・準備委員会で提案されている松林保全作業の継続
- ・情報発信  
ボランティアとの協働作業の参加拡大を図るための地域と連携した情報発信  
地域や子ども達への学習会の開催等による、天橋立の価値の発掘、共有、情報発信
- ・天橋立の環境保全を府民協働で推進するための指導者育成
- ・民間団体を主体とした委員会運営向けの具体的な目標（移行年次、組織形態等）の設定

(4)景観を活かしたまちづくりを支援するための「景観に配慮した公共事業」の取組

①天橋立周辺地域景観まちづくり計画との連携

景観計画で設けた建築物等に関する景観形成のルールを示した景観形成基準に基づく届出等が適切になされるよう、関係市町と情報を共有し、適切な指導を行うことにより、景観計画の円滑な運用を図ります。

②景観まちづくりにつながる公共事業

- ・景観に配慮した護岸整備（大手川京口橋～KTR橋梁）の**完了**を目指します。
- ・宮津養父線（宮津市文珠）：景観に配慮した歩道整備にかかる用地測量に着手します。

○丹後天橋立大江山国定公園の利用と保全の取組

- |              |           |                  |
|--------------|-----------|------------------|
| ①近畿自然歩道の整備推進 | 犬ヶ岬園地     | → 東屋補修 <b>完了</b> |
| ②利用施設の整備推進   | 袖志園地（経ヶ岬） | → 園路整備 <b>完了</b> |
|              | 高嶋園地      | → トイレ改修工事着手      |

○「丹後海と星の見える丘公園」をはじめ丹後管内の府立の体験学習施設の利活用の促進

- ・連絡会議の開催等による施設間での連携協力
- ・府内の校長会や関係機関等への情報発信

平成22年度  
運営目標

○地球温暖化防止対策のための取組

- ①小水力発電の推進と電力の利活用（滝ライトアップ、防犯灯等）の実証と環境学習 1地区（京丹後市大宮町延利）
- ②電気自動車の普及促進 【新規】
  - ・充電器の設置：急速充電器 → 管内2箇所  
200ボルトコンセント → 管内4箇所（2市2町に各1箇所）
  - ・普及啓発 → ホームページなどで充電場所を広く紹介、様々な機会でも電気自動車の展示・運行

○小中学生などを対象にした「出前語らい・環境学習」

- 丹後の優れた自然環境を守る意識の向上を図り、環境保全活動への自主的な参加促進【新規】
- ・環境学習資料を作成し、2市2町で1回以上（年4回以上）環境学習
- ・川の水生生物調査、自然環境観察会の調査結果をホームページに掲載し、管内の小中学校生徒に成果を紹介

○環境保全等の取組を推進し、農地や農業用施設の維持管理保全活動を支援。

- ・ふるさとボランティア活動（ふるさと共援活動支援事業と協働）
  - 棚田保全・耕地保全活動 2地区（伊根町新井、宮津市世屋）
  - バッファゾーン整備活動 1地区（丹後町上山）
- ・企画公募型ふるさと保全活動
  - 棚田フォーラムの開催 1回 【新規】

○野生鳥獣による被害軽減に向けた取組

- ・新規免許取得者の拡大 → 新規免許取得者 20名、狩猟免許取得事前講習会の開催 1回
- ・広域捕獲の実施 → 兵庫県と連携した広域捕獲：2回（与謝野町管内）  
管内猟友会と連携した広域捕獲：2回
- ・人と野生鳥獣の共生の村づくり事業（バッファゾーンの整備等）  
→ 5箇所（宮津市日置、宮津市田原、京丹後市丹後町袖志、同久美浜町佐野、与謝野町）

○間伐・モデルフォレスト運動の推進

- ①森林組合を中心とする間伐施業により、実践研修による人材育成を図りながら、間伐材の利活用を促進 2箇所（京丹後市、伊根町）
- ②企業参加等による京都モデルフォレストの推進 4企業・団体、4地区  
（宮津市大江山、京丹後市久美浜町佐野、伊根町太鼓山、与謝野町男山）
- ③間伐材の利用促進【新規】 京の木の香り事業による木製ダム 2基（京丹後市久美浜町女布）

○放置竹林の拡大防止と竹材利用促進【新規】

- ・緊急雇用創出対策による放置竹林の整備 20ha
- ・政策ベンチャー事業による竹材利用促進（実証実験） 2形態  
（水質浄化剤として竹炭を利用、バイオマス原料として竹チップを樹脂化）

<p>事 項 3</p>	<p>安心・安全な地域づくりの推進</p>
<p>平成22年度 運営目標</p>	<p>【防災関係】</p> <p>○平成21年台風18号等被害の災害復旧事業【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農地・農道・水路等 <u>12箇所</u>（農地） <u>4箇所</u>（農道・水路等）</li> <li>・林道 <u>12箇所</u></li> <li>・山地（治山） <u>1箇所</u>（与謝野町三河内）</li> </ul> <p>○氾濫の多い主な河川の改修事業やネック箇所の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福 田 川（網野町網野～下岡）：橋梁工、築堤護岸工 延長200m</li> <li>・川上谷川（久美浜町橋爪～島）：橋梁工、用地買収等</li> <li>・野田川支川（岩屋川（与謝野町幾地）・加悦奥川（与謝野町加悦））：用地買収等、橋梁工</li> </ul> <p>○大手川の河川激甚災害対策特別緊急事業（平成22年度末の事業完成を目指した改修事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・護岸工、築堤工の事業</li> <li>・全工区の護岸工、築堤工 <b>の完成</b></li> <li>・ワンド（川の本流と繋がっているが、河川構造物などに囲まれて池のようになっている地形）、河川公園整備</li> </ul> <p>○総合的な土砂災害対策</p> <p>＜ソフト事業＞ ・土砂災害警戒区域等指定の拡大 （平成22年度指定予定 <u>250箇所</u>）※ 全体約1,717箇所（平成21年度末現在 716箇所、約41.7%）</p> <p>＜ハード事業＞ ・重点的、集中的な土砂災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 砂防事業：柿ヶ成川、平地川など</li> <li>→ 急傾斜事業：河梨、本庄浜小田宿野、下世屋（雪崩）など</li> <li>・土石災害から避難場所や避難路の保全を図る避難対策施設整備事業（砂防事業：林の谷川）</li> </ul> <p>○災害に強い道路ネットワークの整備</p> <p>①異常気象時の通行規制箇所の整備、災害時における孤立集落を解消するための事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道178号 宮津市由良～脇間 → 法面防災工事（継続）</li> <li>宮津市日置～長江間 → 法面、護岸防災工事（継続）</li> <li>伊根町蒲入～京丹後市丹後町袖志間 → 法面防災工事（継続）</li> <li>・国道312号 京丹後市久美浜町坂井～栃谷間 → 用地買収、工事着手</li> </ul> <p>②橋梁の耐震化及び長寿命化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道176号 加悦大橋 → 工事着手</li> <li>・国道178号 水ノ江橋 → 工事着手</li> <li>甲山橋 → 橋脚補強工事着手</li> </ul> <p>③降雪時の安全な道路整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道178号 蒲入工区 → スノーシェッド<b>完成</b></li> </ul>



平成22年度  
運営目標

- ・国道312号 水戸谷工区（堆雪帯設置、消雪パイプ設置） → 用地買収、工事着手
- ・浜丹後線 中山工区 → スノーシェルター下部改築工事（継続）

○自然と環境に優しい公共事業

①美しい海岸線を保全するための海岸侵食対策

- ・後ヶ浜海岸 → 経過観測により人工リーフの効果を検証
- ・久美浜海岸 → 平成22年夏の**完成**
- ・由良海岸 → 養浜工・離岸堤嵩上げ・護岸根固工の継続

②地域と自然が共生する川づくり

- ・宇川 → 多自然川づくり（袋詰玉石工等による全面魚道）、ワークショップによる河川公園・親水護岸工を継続
- ・犀川 → ワークショップによる親水護岸工を継続
- ・香河川 → ワークショップによる河川公園・斜路工等を継続

【安心・安全】

○管内不法係留対策

「大手川」について、現状確認を行い、不法係留対策に係る計画を取りまとめます。

○民間木造住宅等の耐震対策の普及【新規】

- ・管内市町と連携し、木造住宅耐震改修（補助）の促進 → 耐震改修 10戸（平成21年度実績 7戸）
- ・市町への耐震施策実施に当たって必要な技術的な支援
- ・市町及び建築関係団体との協働による民間木造住宅等の耐震対策の普及や啓発 → 出前語らいの実施、耐震フェアの開催

○建築確認検査率の向上

- ・建築確認の完了検査率（平成21年度82% → 22年度100%）
- ・特殊建築物の定期報告率（平成21年度33% → 22年度50%）【新規】

地域振興計画	生活・交通等基盤整備の推進
事 項 1	地域での生活や活動を支える条件整備と域内外の交流を活発にする基盤の整備
平成22年度 運営目標	<p>○鳥取豊岡宮津自動車道の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮津野田川道路 → 平成22年度<b>完成</b></li> <li>・野田川大宮道路 → 用地取得<b>100%</b>、本線工事着手</li> </ul> <p>○丹後地域の骨格となる幹線道路の通年2車線確保を目指し、重点的な整備を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道482号 丹後弥栄道路（弥栄町工区）→ 用地買収促進、築造工事（延長1,000m）</li> <li>・国道312号 橋爪道路（永留～橋爪工区）→ 用地買収・築造工事（延長200m）、物件補償 3件</li> <li>・国道482号 久美浜町尉ヶ畑工区 → 築造工事（160m）、物件補償 2件</li> <li>・網野峰山線 峰山町石丸工区 → 築造工事（190m）</li> <li>・味土野大宮線（鳥取豊岡宮津自動車道（野田川大宮道路）事業推進に向けた支援） → 歩道設置（新規事業着手）</li> <li>・国道178号 蒲入バイパス → 測量着手</li> </ul> <p>○歩行者等の安心・安全を確保する道路整備を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道178号（宮津市里波見） → 用地買収</li> <li>・国道312号（京丹後市久美浜町永留～橋爪） → 用地買収、築造工事</li> <li>・加悦岩滝自転車道線、田井大垣自転車道線 → LED照明設置（新規事業着手）</li> <li>・国道482号（丹後町大山） → 用地買収</li> <li>（完成予定箇所）</li> <li>・国道482号交通安全（丹波～荒山） → 歩道設置工事<b>完成</b></li> </ul> <p>○地域の生活を支える道路の効果的な整備（平成22年度整備路線 <b>17路線</b>予定）</p> <p>○公共用地取得プロジェクトチームの活用で、地元関係者に十分説明し理解を得ながら、計画的かつ円滑に事業実施 → プロジェクト対象箇所 <b>3路線</b>（国道482号丹後弥栄道路、温江加悦線、野中丹後神野停車場線）</p> <p>○公共事業を府民協働事業により積極的に推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・府民協働（「ワークショップ」「出前語らい」「工事見学会」など）による公共事業の整備 → 目標数 府民協働 <b>10,000人</b>（平成21年度実績 9,100人）</li> <li>・ボランティア活動の推進及び参加拡大（「さわやかボランティアロード」・「たんご地域に愛される川づくり」・「天橋立まもり隊」） → 新規参加団体目標数 <b>10団体</b>（平成21年度新規14団体）</li> </ul> <p>【北近畿タンゴ鉄道（KTR）】</p>

○年間総輸送人員 210万人を目指します。

- ① サポーターズクラブ会員1万人達成に向けて、平成22年度のサポーターズクラブ会員、トレインオーナー 年間5,000人達成を目指します。
- ② 府広報誌やFMたんご、関係市町広報誌により、管内全世帯に利用PRを実施（管内全世帯）
- ③ 峰山・宮津総合庁舎での会議開催時には、KTR時刻を考慮するなどし、職員のKTR利用を促進するとともに、その利用実態を把握

中期ビジョン	行政経営
事項 1	管内市町、府民との連携強化による行政経営の推進、地域力再生
平成22年度 運営目標	<p>【地域力再生プロジェクト支援事業交付金による支援】【団体間の連携・協働やネットワークの構築】</p> <p>○<u>65件以上</u>（平成21年度60件）の地域団体の支援と団体間のネットワークを構築で、新たなコラボ活動につなげます。</p> <p>①地域力再生活動では、「地域産業おこし」などに加えて、「地域での高齢者の見守り活動、子育て支援、共助型福祉、防災・防犯」の分野にも力を入れます。</p> <p style="text-align: right;">65件中<u>10件</u>（平成19～21年度：160件中18件）</p> <p>②「FMたんご」、インターネットTVなどの地域メディアツールを活用した団体活動PR（支援団体（<u>40団体以上</u>）） → PR活動を通じた支援団体間、地域内のその他団体間のネットワークの構築</p> <p>③団体（NPO、地域力再生活動団体、自治会など）による出前型「情報交換会」の開催（初年度<u>2地区</u>）</p> <p>④団体の活動状況調査や団体訪問・活動相談による団体活動のフォローアップ（21年度から継続実施）</p> <p>【NPOとの協働等】</p> <p>○丹後NPOパートナーシップセンターを拠点としたNPOの情報発信</p> <p>①パートナーシップセンターのホームページ登録団体数<u>30団体</u>（H21年度6団体）及び閲覧者<u>10,000アクセス</u>（21年度4,095アクセス）</p> <p>②地域力再生活動やNPO活動に関する出前型相談会の開催（年間<u>4回以上</u>）（再掲）</p> <p>③<u>40団体以上</u>が「FMたんご」などの地域の情報発信ツールを活用した活動の情報発信 （「丹後地域情報発信ネットワーク」（プラットフォーム）：再掲）</p> <p>【「命の里」事業による農村地域の再生】</p> <p>○「里の仕事人」を配置し、「複数集落の連携」、「集落と大学等多様な主体による組織の育成」等による過疎化・高齢化農村地域の再生活動（生活環境基盤の整備や地域特産物の開発など）を支援します。</p> <p>①里力再生計画の策定地区数 5地区 → <u>8地区</u>（新規：宮津市上宮津、伊根町蒲入、京丹後市（公募））</p> <p>②ふるさと共援組織の協定数 6協定 → <u>7協定</u>（新規：京丹後市）</p> <p>③都市農村交流施設の整備 <u>6か所</u>（宮津市世屋、上宮津、伊根町、京丹後市）</p> <p>④農業生産基盤の整備 ・農道舗装等 <u>5箇所</u> ・水路補修等 <u>5箇所</u></p> <p>【広報】</p> <p>○年間を通じた計画的な広報</p> <p>・振興局ホームページ、「たんご活動プランニュース」（<u>年2回</u>、全戸配布）、府民だより地域版（年4回）の定期的発行、市町広報誌・FMたんご等の活用により、計画的な広報を展開します。</p>

【丹後地域振興計画の策定】

○地元在住者で構成する丹後地域戦略会議や「府民交流会」などでの府民の意見も踏まえ、次期・丹後地域振興計画を策定します。

平成22年度運営目標数	72	平成21年度運営目標数	57
うち数値目標設置数	67	うち数値目標設置数	47